（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2690900374		
法人名	ヒューマンライフケア　株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア伏見グループホーム（2F）		
所在地	京都府京都市伏見区日野谷寺町６８		
自己評価作成日	令和2年3月9日	評価結果市町村受理日	令和2年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900374-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋２丁目４番１７号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成2年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常生活を送るうえで、毎日散歩に行くことでADLの低下を防いでいる。調味料やオムツなどの買い物は発注で買わずに買い物に行く機会を作り、利用者と共に行けるようにしている。毎食事も職員だけで用意するのではなく利用者と共に盛り付けや調理をしている。洗濯物も職員だけで行うのではなく利用者が出来ることを最大限にしている。基本的には利用者と共に何かをすることを目標に日々のケアを行っている。職員が何かしたいことがあれば積極的に行える環境をつくるようにしている。管理者と一職員との距離はなく、日々の中での相談や提案は多く作れている。法人全体でのマイスター制度がありますが、マイスター取得をするために1年関研修を出来るようになる為、毎月研修をして成長につなげる取り組みを行い、スキルアップにつなげられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは利用者の下肢筋力低下予防の為に毎日散歩に出かけており、散歩した距離数を測り富士山登頂や琵琶湖一周等具体的な目標を設定することで楽しみながら継続できるように工夫をしています。また、日々のドライブをはじめ近隣の幼稚園の運動会見学や初詣や花見、紅葉狩り等季節外出の他、平安神宮や桃山城、滋賀県の公園等まで遠出をすることもあり、利用者が楽しめるよう多くの外出支援に取り組んでいます。地域との交流も大切にしており、駐車場での公園体操への参加や移動ローソン利用時に地域の方と関わりをもったり、コーラスや楽器演奏等のボランティアの来訪や学童保育児童による踊りの披露の他、職員は地域の夜間巡回や徘徊時の模擬訓練等に参加するなど良好な関係を築いています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はオープン当初に考えたもので実践については行っているが、現在の職員で再度話し合いたいと考えているが実行までは出来ていない。	法人理念を基に各ユニット毎に目標を設定し勤務時に各職員が目にすることが出来るように各フロアに掲示すると共に新任入職時には理念の説明を行い職員への意識づけをしています。一人ひとりの利用者にとってホームが我が家となる様に寄り添いながら日々の支援に努め、会議の中でも職員間で話し合い理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園体操を駐車場で行うことで、近隣やグループホームの方も参加できるようにしている。	自治会に加入し運営推進会議や回覧板等で地域の情報を得て、陶灯路の見学や駐車場で行う公園体操への参加、保育園の運動会の見学等に出かけており、職員は夜間のパトロールや認知症徘徊時の模擬訓練等に参加しています。駐車場での移動ローソンには地域の方の参加もあり関わりを持っています。コーラスや楽器演奏等のボランティアの来訪の他、学童保育の子どもたちがソーラン節を踊りに来てくれるなど地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では近隣の町内会長には参加してもらい、現状などを話をするが、認知症については話はしていない。散歩中に少し理解をしてもらい、「車が来た」などの声をかけてもらえるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ベルマークを集め、近隣の小学校に届けようとしたが、集めていない現状だった。運営推進会議で話をすると、空き缶は集めているとのことで地域の小学校に届けれることが知れた。	会議は併設の事業所と合同で自治会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に行い、利用者の状況や行事、苦情、事故報告等を行い意見交換をしています。得られた意見から空き缶集めやベルマークの収集、職員による見守りパトロールの取り組み等に反映するなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かわからないときは、連絡をし確認をするようにしている。	運営推進会議の議事録を届けホームの状況を伝え、書類の手続きや制度上わからないことがあれば電話にて確認するようにしています。市町村より連絡を受けた研修にはできる限り参加し、注意喚起等が届いた場合は玄関等に掲示し全職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回委員会を開催し、身体拘束をしない振り返りをしている。フロアーのドアも鍵をせずに過ごすことが多い。	年2回身体拘束についての研修を同じ内容で行い全職員が受けられるようにしており、職員の理解を深めています。安全な見守りをするためにセンサーを使用している方もいますが3か月ごとの会議にて必要性等について検討を行っています。玄関やエレベーターは施錠していますが各フロアの出入口は施錠せず、外に出たい等の希望があれば職員が付き添って出かけたり気分転換を図るなど閉塞感のない暮らしへの支援に努めています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権についての研修を行い、全員を対象に虐待についてのアンケートをし、集計をしたものをみてもらい、振り返りにしてもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に研修はしたが、その後の勉強は出来ているない。外部研修にも出れるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度に関しては契約を結ぶことは無かったが、改定時は別紙などを用意し、加算によって金額がどれくらい変わるかを作成し、説明をした。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やモニタリングの時に施設でのしてほしいことなどを確認している。	利用者の日々の様子については面会時や毎月送付する手紙や写真にて報告し、家族から意見や要望は運営推進会議や面会時、年1回の満足度調査の中で聴いており、個々の要望に対しては都度対応しています。家族からの要望である下肢筋力低下予防のための一人ひとりに合わせた毎日の散歩は継続しています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて職員の話すという機会は作っていないが、日々の中で職員とのコミュニケーションを大切にし、色々な意見は常に話をして、反映している。	職員の意見や提案は毎月のフロア会議や日々の業務の中で聴いており、年1回の定期面談や随時の面談時も意見を聴いたり相談ができる機会となっています。職員から出された提案を基に話し合い利用者が自宅の様に寛げるよう畳のスペースを設け冬場には炬燵を出し鍋料理楽しむなど、出された意見をサービスの向上等に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設での取り組みを成功事例として会社の掲示板に乗せたりしている。自分のしていることを振り返り自信にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるように同じ内容を2か月間行い出来る限り参加できる体制をとっている。若手の職員が研修を行うことで、人前で話せることと、再度勉強できる機会をもっている。外部の講師を呼んでの研修を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部講師を呼んでの研修をするときに他施設の職員が来られて一緒に参加した。他施設の運営推進会議にも参加し、資料を参考にさせてもらった。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問し、本人について家族や本人からの聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問し、本人について家族や本人からの聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するタイミングなども含めて、本人や家族と話し合いを十分にしてから入居してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自身で行えることは最大限行っていただき、衣服の着用の仕方など混乱されることがあれば、声かけなどで動作を誘導し自身で行えるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などよく話をしている。利用者の現状の過ごし方や、過去の過ごし方を聞き取り、参考にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	おもに家族との関係を大きく持っている。	友人や同僚、親戚等の来訪時には居室やリビング、相談室等話しやすい場所を選んでもらいお茶や椅子を用意しゆっくり過ごしてもらえるように配慮をしています。以前住んでいた自宅付近をドライブしたり、昔の話を聞いて懐かしんでいます。また、年賀状や手紙は一緒に目を通し居室に貼るなど今までの関係が途切れないよう支援をしています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あえて利用者が座る位置を固定せず、ソファーやコタツなど利用者同士が好きな位置に座り、関わり合いをもてるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に手紙を送ったりしている。混乱されそうな方に関しては家族に事前に確認をしている。		
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜の就寝前家では23時ごろまでテレビを見ていたと話される利用者様は、眠くなるまでテレビを見られていたり、決まった生活の流れではなく、1人1人が自由に過ごしていただけるように支援している。	入居前に施設や病院、自宅等本人が暮らしている場所まで出向き面談を行い、本人や家族から今までの暮らし方や今後の希望、趣味、嗜好等を聞きフェイスシートに記載し、思いの把握に努めています。入居後は日々の関わりの中から聞き得た情報や職員が気づいたこと、表情や様子等から汲み取ったをことを介護記録に記載し会議等で本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室に神棚を置いている利用者が毎朝、お供えの水の入れ替えを継続して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事の準備から片付けまで利用者に手伝っていただいたり、他には洗濯物畳みや手すり拭きなど、毎日の日課を提供している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で、利用者1人1人について話し合いを行っている。モニタリングでは利用者の担当職員が評価を行い、フロア会議で職員全員で話し合いケアプランに反映している。	本人や家族の意向、アセスメントシートを基に介護計画を作成し初回は1ヶ月から3ヶ月で見直し、特に変化がなければ6ヶ月ごとに更新しています。3ヶ月毎に状況確認のためモニタリングとアセスメントを行い変化があれば追記しています。見直し時には再アセスメントを行い家族の参加を得てサービス担当者会議を開催しています。家族不参加の場合は事前に意向の確認をし、必要に応じて医師の意見等も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度から記録にもケアプランについて記載できるように工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1日のスケジュールを決めず、その日に出勤した職員がその時の利用者の様子や雰囲気等をみて、取り組みや支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常で必要な物品(調味料やパット類等)を近所のスーパーへ職員とドライブがてらに買い物に出かけ揃えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族から病院で診ていただきたいと希望があった際、職員が家族と病院の間に入っている、また職員が受診へ同行している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる旨を説明し殆どの利用者はホームの協力医に変更しています。協力医は2週間に1度の往診があり24時間連絡可能となっており、緊急時には看護師を通したり、直接医師に連絡をし指示を仰いでいます。以前からのかかりつけ医や専門医への受診は家族が対応していますが必要に応じて職員が対応することもあり、皮膚科や歯科は希望や必要に応じて往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師に来ていただき、利用者についての相談やバイタルを測り、健康を管理していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、家族から必要な物品等をその都度連絡を頂き病院へ届けていた。退院カンファレンスに参加し、退院後利用者や家族に安心して生活していただけるよう支援を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について家族と十分に話し合いを行っている。施設で出来ることと出来ないことを説明し、家族から最後は当施設で迎えたいと希望がある。	入居時、家族に医療行為が必要となった場合はホームで対応できないことを説明すると共に意向の確認をしています。重度化した場合は医師から家族に説明してもらい再度意向の確認を行い職員と一緒に看取りの方針について話し合う予定であり、終末期には家族が泊まって付き添うことも可能であることを伝えています。看取り支援についての研修は実際に看取り支援をする行う予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修会を施設で開催。急変時の対応はフロア会議で定期的に確認を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。事務所内に火災報知機と消火器の配置場所が記されたフロアマップと、施設周辺の避難場所が記された地図を見えるところに張り付けている。	併設事業所と合同で年2回消防署立会いの下、昼夜間を想定し通報、初期消火、消火器の使用方法、利用者の参加を得て避難誘導等の訓練を実施しています。運営推進会議の中で訓練の案内や報告をしており参加してもらったこともあり、地域の防災訓練に参加したこともあります。飲料水やかやくご飯等の食料3日分とカセットコンロや懐中電灯等も準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の研修を開催している。またその中で、自身の言葉かけや関わりを振り返る時間を設けている。会議で言葉かけなどに対し管理者より指導が入る。	年1回接遇や人権についての研修を行いその中でアンケートも取り振り返りながら理解を深めています。日頃から丁寧な言葉で対応するよう心がけ、呼称は苗字で呼ぶようにしています。日々の支援の中で不適切な対応がが見られた際には管理者や職員間でその都度注意をしています。入浴等羞恥心を伴う場合、希望があれば同性介助に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に出かけたいと希望があれば、時間を伝えスケジュールを組み立てている。また夜に寝るまでテレビを見ておきたいと希望があれば、無理に寝ていただこうとせず、テレビを見ていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールで1日を過ごすのではなく、その日勤務の職員で考えスケジュールを組み立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の体系の数値を計測し利用者家族へ伝え、利用者にあった洋服を購入してきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の工程から、盛り付け、配膳、下膳、片づけまで利用者とともに行っている。	食事は業者から献立と食材が届き利用者にもできる事に携わってもらいながら一緒に作っており、ユニットによっては職員も一緒に食事を摂っています。月に1回以上はお好み焼きや寿司、マーボー豆腐、丼物等利用者の好きなメニューを取り入れています。炬燵を囲み鍋物などを楽しんだり、弁当をとったり、回転ずしなどの外食の他、ケーキや水無月、ホットケーキなどの手作りおやつなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を飲むのが苦手な利用者には、お茶に片栗粉でとろみをつける等をし、飲みやすいように工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に毎月相談をし、口腔ケアについてのアドバイスを頂き、職員に周知している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から前回の排泄時間をみてトイレ誘導を行い、立位の取れない利用者に関しては職員2人介助にて移乗、下衣の上げ下ろしをし、日中はパット交換はせずトイレに座っていただき排泄ができるようにしている。	日中はトイレでの排泄を基本としており記録を基にパターンの把握をし、一人ひとりに合わせた対応をしています。入居後トイレにて排泄ができるようになった方や退院後おむつを使用していた方が紙パンツに変更するなど元の状態に戻るよう支援しています。 排泄用品や支援方法については会議の他、都度話し合い自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3名が入浴できるよう調整しているが、希望があれば入浴していただける環境にしている。浴室の壁に露天風呂の壁紙を張り入浴剤を入れることで、普段の入浴と違う雰囲気を作る工夫をしている。	入浴は週に2～3回、日中に支援をしていますが、希望により夕方に入る方もいます。湯は毎回入れ替え、柚子や菖蒲、ミカンの皮などを使用した季節湯の他、様々な入浴剤を使用したり、浴室には富士山の写真を貼るなど温泉気分を味わってもらい、会話を楽しみながらゆっくりと入っています。シャンプーやリンス、石けんを持参している利用者もいます。重度の方は併設事業所のリフト浴を使用することも可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間を決めず、利用者1人1人が寝たい時間に寝られるよう、寝るまでフロアでテレビを見て過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が苦手な利用者に対して、片栗粉と少量の砂糖でとろみをつけたお茶に混ぜ、飲みやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日常生活上の家事や歌レクリエーション、毎日散歩に出かけたり、体操に参加してもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全利用者が毎日散歩に出かけられるよう、その日のスケジュール調整を出勤している職員が行っている。毎日散歩に出かけ、近隣の住民の方々との関わりを継続して取ることが出来ている。またドライブにも出かけ花見や初詣等季節を感じられる外出レクを行っている。	全利用者が毎日散歩に出かけており、日用品やおやつ等の買い物に行くこともあります。初詣、桜やつつじの花見、紅葉見学等季節毎の外出の他、平安神宮や桃山城、滋賀県の公園等まで遠出をすることもあります。また、駐車場で行う公園体操に参加したり、外のベンチに座り外気浴をするなど外気に触れる機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に金銭の入った財布を持っていただいていたが、中身をみることで「お金が全然入ってない」と不穏を招いたり、居室やフロアにお金が落ちていることがあったが、しばらく自己にて管理していただいた。	,	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話をかけたり、手紙のやり取りは出来ていない。電話がかかってきた時は取り次ぐことはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁紙は、その時の季節を感じていただける飾りをしたり、昭和歌謡の歌詞などを貼ることで自然と歌ってもらうことに繋がっている。また廊下には利用者の方々の日中の取り組みの写真を貼ることで、利用者同士の会話が弾むきっかけとなっている。	フロアは利用者と共に毎日換気や掃除を行い清潔保持に努め、日差しが強い時にはカーテンで調節しています。季節を感じられるように利用者と一緒に作った季節毎の貼り絵を飾ったり、時には季節の生花を購入し活けることもあります。ソファを置いたり畳コーナーを作るなど利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しています。テーブル席は利用者の相性やその日の状況により変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやコタツで休んでいただけるよう場所を作ったり、テーブル席は気の合った利用者同士が談笑したり、利用者にとって居心地の良い空間になるよう席配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で布団で寝ていた方は、ベッドを居室から出している。神棚を作り毎日水の入れ替えを行っている。自宅で使い慣れたタンスや鏡台等を入れ、利用者各々が落ち着ける空間を作っている。	入居時には家族に馴染みの物を持参してもらうように伝え、時計や洋服ダンス、鏡台、時計等を持ち込まれ家族が配置しています。入居後は利用者の身体機能に応じ、家族と相談し配置換えをすることもあります。神棚を置き毎日水を換えたり、家族の写真、アルバム、自身の表彰状など大切なものを傍に置きその人らしく安心して過ごせる居室作りに配慮し、日々の換気や都度掃除を行うなど快適に過ごせる環境を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアで過ごされる際、テーブル椅子だけでなくソファやこたつを置き、自身が過ごしたい場で過ごすことが出来るように工夫している。		